

# 第79回 CPD セミナー・公開講座(香川会場)

## 1. 概要

2022年6月20日(月)、高松市のホテル パールガーデンにて、第79回 CPD セミナー・公開講座を開催した。

セミナー・公開講座参加人数は100名で、コロナ第6波が収束に向かうなか、多くの参加者を迎えることが出来た。

表1 プログラム

<b>1. 四国本部からの情報提供(14:10~14:40)</b> 講師：総務委員長 谷脇 準蔵氏
<b>2. CPD セミナー(14:40~15:40)</b> 演題：「経済産業省におけるカーボンニュートラルへの施策」 講師：岡田俊也氏（四国経済産業局資源エネルギー環境課長）
<b>3. 公開講座(15:50~17:00)</b> 演題：「JICA 四国が進める国際協力」 講師：山科恵美氏（(独法)国際協力機構四国）
<b>4. 新合格者の紹介(17:00~17:15)</b>
<b>5. 懇親会(17:30~19:30)</b> (1)開会挨拶 副本部長 末澤 等氏 (2)中締め 防災委員長 天羽 誠二氏

## 2. 四国本部からの情報提供

最初に四国本部総務委員長の谷脇氏より“技術士 CPD 活動実績の管理および活用制度”について説明があった。前回セミナーで(公社)日本技術士会技術士制度検討委員会の中川委員長より新制度の説明があったが、その後半年を経て利用者が増えていない現状をみて行われた。

今回は技術士会 HP からの入力の実際に重点を置いて説明された。ホームページが新しくなり、アクセス、登録、管理は以前より容易になった。CPD 活動実績の証明は今必要なくても、数年間の実績はすぐにとれるものではないので、早めに準備することが大事であると感じた。登録は簡単できるので利用者が増えることを期待したい。

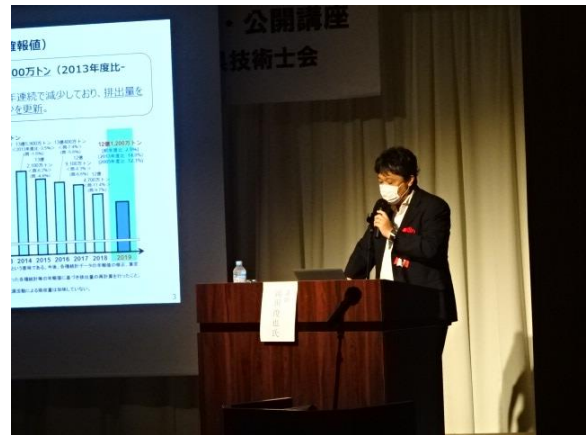


写真1 岡田様ご講演

## 2. CPD セミナー

CPD セミナーでは四国経済産業局資源エネルギー環境課長の岡田俊也様より、カーボンニュートラルをめぐる動向について説明を頂いた。(写真1)

地球温暖化に対処するため、CO<sub>2</sub> 総排出量の85%を占める142の国と地域がカーボンニュートラルにコミットしている。日本も2050年をめどにカーボンニュートラルを達成するとしており、政府はそれに向けてグリーン成長戦略を打ち出した。予算、税制、金融、規制改革など政策を総動員して進めている。

全体像としては電力部門の脱炭素化と、産業、運輸、家庭など電力部門以外の電化でカーボンニュートラル実現をもくろんでいる。そして脱炭素化のキーテクノロジーとして日本は水素にフォーカスしている。太陽光・風力など再生可能エネルギーでの水素製造や、化石燃料を用いてもCO<sub>2</sub>を排出しない製造プロセスなどの開発。水素の輸送、水素燃焼ガスタービンによる発電など様々な新技術の確立が早急に求められている。

また中小企業も主要なCO<sub>2</sub>排出源のひとつであり、対応は必須である。しかし、規模・体力的に新技術の開発・導入が困難なところが多く、対策を促進するために国は様々な補助事業を打ち出している。事業の詳細は問い合わせれば紹介できるとのことであった。地方の企業であってもカーボンニュートラルに対し例外にはならないことを痛感した。



写真2 山科様ご講演



写真3 新合格者紹介

### 3. 公開講座

公開講座では JICA 四国の山科恵美様より”SDGs と JICA”と題してお話頂いた。(写真2) (独法)国際協力機構(JICA(ジャイカ))は日本の政府開発援助 (ODA) を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っている。

山科様は青年海外協力隊から JICA 職員になった経歴を持ち、支援の実際、意義などを紹介された。開発途上国の中には、そのおかれている環境の厳しさから発展が見込めないと思われる地域もあるが、それでも「信頼で世界をつなぐ」という信念で活動しているとのことであった。

また JICA の活動は SDGs と深く関係があり、SDGs の理念のひとつである“誰一人取り残さない”包摂的な社会の実現”に向けて取り組んでいる活動も紹介された。JICA には地方の企業・組織でもできる支援活動、ビジネス支援プログラムなど多くのメニューが用意されており気軽に相談してほしいとのことであった。

### 4. 新合格者紹介

今回は令和3年度の合格者から4名の方が参加された。これからの活躍が楽しみな方ばかりであり、また技術士会での活動も期待したい。(写真3)

### 5. 懇親会

末澤副本部長の挨拶・乾杯で始まり、天羽防災委員長の中締めまで約2時間歓談することが出来た。(写真4)



写真4 末澤副本部長挨拶

久しぶりのリアルの懇親会でみんなの笑顔が印象的であった。

### 6. おわりに

体温チェック、手指消毒など基本的な対策はしつつ久しぶりに従来型のセミナー・公開講座を開催することが出来た。ただ、新合格者の並びを見るとアフターコロナの新しい生活様式が定着しつつあるように感じた。

---

丸山 正 (まるやま ただし)  
 技術士 (建設部門)  
 四国本部事業委員 (香川地区幹事)  
 青葉工業株式会社